

「2月22日」でグーグル検索してみると、何ともあれ「猫の日」らしい。

ニャンニャンニャンで猫、チュンチュンチュンで、鳥の日という説もある。

また、昨年(2017年)の2月22日には、ニュースで「今日は忍者の日でした〜ニンニンニン」と、忍者イベントの紹介を集める始末だ。

なんとというお気楽な国だろう。

2月22日は、何がなんでも「竹島の日」ではないのか？

1952年、突如大韓民国の武力攻撃により侵略された島根県の竹島は、私自身の戸籍がある本籍地でもある。

2005年に島根県が条例により、「竹島の日」を制定して12年経つが、民放各局は、腫物に触るように「竹島の日」を無視している。

2月7日の北方領土の日は、閣議了解を経て制定されたが、この「竹島の日」については、未だ国家から無視されている。

主権を守るのが、国家の最も重要な仕事ではないのか？

それどころか、わざわざ不法に入国してこの記念日を妨害する活動家の手助けまでしている。毎年この日、松江の街を騒がせる、韓国の職業活動家の不法行為について、見て見ぬふりをしているのだ。彼らは明らかに入国管理法に触れており、入国を拒否すべき対象であろう。そもそも、そんな弱腰だから、舐められるのだ。日本海で操業する北朝鮮の不法漁船も然り、甘みられているから、無秩序を増長させ、日本

『2・22 ～歴史の捏造～』

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

の漁師の安全が脅かされる。

日本の国境は、近隣諸国によって日常的に凌辱されており、少なくとも抑止力が機能していない。事なかれベースの優しい監視や見守りは、犯罪を増長するばかりだ。もし、日本側が同様の侵犯行為をしたら、拘束はもちろん、命の保証もないではないか。ルールは、罰則があつて初めて守られる。

倫理観や寛容さによって秩序が保たれるかどうかは、その国の生活習慣や文化を見れば想像もできよう。今や、国際社会、特に東アジアでは、無節操なサイバー戦や情報戦が横行している。情報戦において、イベントや記念日は、まさに重要兵器であり、周到なロビー活動が、ウソを事実に変えてしまう。

国家が計画的に情報戦を仕掛ける国と、国家も国民も何の関心も示さない国との勝敗は明白である。現在進行形で、どんなに公明に正論や平和主義を訴えたところで、歴史的には「差別的かつ好戦的な残虐種族」という国際評価が定着してしまう。そんな残虐非道民族の、「固有の領土だ！」などという遠吠えに、耳を貸す国はない。

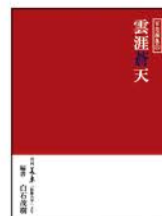
日本を黙らせるには、ミサイルより、「歴史の捏造」だ。

日本が、国際社会で名誉ある地位を占めることはよもやない。



Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。



美楽での連載を束ねた百念撰集
『雲涯蒼天』
定価700円
Amazonにて販売中